

[報告]第24回歴史地震研究会に参加して

東京電力株式会社* 野口 厚子

Report of 24th Annual Meeting

Atsuko Noguchi

Tokyo Electric Power Company

1-3, Uchisaiwai-cho 1-chome, Chiyoda-ku, Tokyo, 100-8560 Japan

§1. はじめに

平成19年9月15日～17日にかけて、第24回歴史地震研究会が静岡県下田市にて開催された。毎年、過去に大地震が発生した場所で研究会が開催されており、今回の開催は安政東南海地震、元禄および大正関東地震により、津波被害を受けたことになんでのものであった。

私は仕事で1933年昭和三陸地震についての研究を始めたのをきっかけに、前回の大船渡大会に初めて参加させていただいた。今までに参加した学会とは全く違う雰囲気と、参加者の方々の強烈な個性を体感し、まさに未知との遭遇であった。2度目の参加となった今回の研究会も、期待通り、非常に楽しく印象深いものであった。

§2. 研究発表会

研究会は、歴史地震研究の特徴ともいえる、様々な分野(震源解析、防災、地形・地質調査、史料の分析・・・)について活発な議論が交わされた。素人の私には「へえ～」という話題が多く、聴いていて飽きなかった。自分の視野もまた広がった。「歴史地震って本当に面白い！」と改めて思う。

ちなみに発表会の昼食は、地元の仕出し屋さんのお弁当だったが、金目鯛の煮付けをはじめ、色とりどりの内容で、3日間の食事の中で一番美味しかった。

§3. 公開講演会

16日の午後は、公開講演会「下田の津波とこれからの防災」が行われた。3連休の中日であったにもかかわらず、多くの方々が参加され、その関心や防災意識の高さがうかがえた。

講演はまず、下田市史編纂室長;佐々木氏より「下田の歴史と地震津波」、続いて基調講演「伊豆半島沿岸地域における歴史津波の波高分布」、「安政東南海地震・南海地震の教訓」、「安政東海地震津波(1854)に学ぶ津波の法則と教訓」が行われた。それぞれが大変興味深く、下田市民の皆様のみならず、

歴史地震研究に携わる我々にとっても貴重なお話であった。

羽鳥先生が、伊豆半島沿岸を対象として長年丁寧な調査された津波エネルギー累積分布により、伊豆半島西岸での津波危険度の高いことを示されたことは、将来の東海地震の備えへの一助になったはずである。

また、都司先生は、下田市が過去に受けた津波被害から学んだ法則と、津波対処法について熱心に語られ、引き込まれる感じだった。先生の親しみの持てる風貌と、「下田市のために」という情熱のこもった語り口が本当に良かったと思う。

§4. 巡検

私にとって、研究会の一番の楽しみは巡検である。今回は、雨が降ったりやんだりの天気の中、下田市内の地震津波跡地等を、現地ボランティアの方の説明を受けながら徒歩にて移動した。

津波・高潮を防ぐ為の堤防(除波堤)、みなと橋を渡り、名物のなまこ壁の家、本覚寺の津波塚、長楽寺(日露和親条約の締結)・・・を巡った。長楽寺の石段に刻まれた痕跡から、改めて津波の驚異を認識した。また、下田の歴史に触れ、市民の方々の歴史への造詣の深さと郷土愛を深く感じる事ができた。

§5. おわりに

今回の出張に際し、職場からは「温泉研究会？」などと失礼なことを言われましたが、半分嘘ではありません。第二の目的であった温泉を堪能でき、夜はぐっすり眠れ、久々にゆっくり心身を休めることができました。会社と家族に感謝します。

今後も、研究会を通して歴史地震の最新の知見を得て、当社の地震防災対策に活用していきたいと思えます。

末筆となりましたが、研究会の企画・準備、宿の手配、巡検の案内をして下さった皆様には大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

* 〒100-8560 東京都千代田区内心町1-1-3